

3面から続く

**與那覇** しかし創価学会の集まりの中では、水原の影響力も、原因を作った企業で働く人も、行政の人々、信仰という共通点に立って一緒に話そうができた。「宗教というつながりがないならば、そうした場は決り成り立たなかつたでしょう。」

**西方** 創価学会は、「座談会」という地域ごとの少人数の集いを伝統的に全国各地で毎月開催している。同じ信仰を貫き通しているというベースに加えて、日常から

**與那覇** 創価学会の教義には、人は「本人だけ」では救われないうとして、社会への関心が組み込まれていると、それは大変に意義のあることだと思えます。目下の日本では、自己啓発ばかりが説かれる中で、誰もが周囲に敵対的になっている。政治の世界も同じで、立場が違うと対話すらできない。

**西方** しかし日本には、宗教が政治に関わってはいけないという風潮が強い。特に一昨年7月に起こった安倍元首相の銃撃事件以降、そうした空気が強まりました。この事件の本質は一個人によるテロ行為であり、一部の政治家と反社会的活動を長年継続するトランプ団体の関わりの問題です。にもかかわらず、無理難題から図形的に「政治と宗教の関わり」全般の問題として取り上げられ、宗教そのものまで否定されたような、宗教的な言説も散見されました。

**與那覇** 衝撃的な事件ゆえに、「宗教は危険だ」と決めつける人が出るのはいかならない面もあります。知識人や有識者は、そうした相対的・やや、議論に傾く流れに「それは違う」と論ずるが、本来の役割は、それなりの規模で暴走する民意に「そのままでいい」として制約をかける識者ばかりで、あきれいています。



学会伝統の「座談会」

のつながりを通して、「何を話しても大丈夫」という「心理的安全性」が地域ごとに育まれているのは学会の強みだと思います。

**與那覇** 今の社会が「適度な面倒くささ」の価値に気付くまで、宗教の果たす役割は非特によくはない。創価学会が一つのモデルを示して、面倒くささこそ得られる安心感を伝えてくればと思います。

**宗教にすぎらざるを得ない!?**  
西方 本年は公明党結党50周年に当たります。公明党は「大衆と

ともに」を立憲精神に掲げ、福祉・教育をはじめとする分野で多くの実績を残してきました。私たちが創価学会は、公明党への支援活動を通して、政治に関わり続けてきました。そもそも日蓮大聖人は、社会の安穩と「民衆の幸福」のため、社会に積極的に関わりました。時の権力者・北条時頼に提出した「立正安国論」には、「自分自身の安泰を願うならば、世の中の平穏を祈ることが必要であるのか」「新44・全引、懸念」という一節がある。私たちが会のためを思っって政治に関わる理由もここにありま。



1967年9月、千葉市内の小学校で最新し教科書を受け取る子どもたち。今や常識となっている義務教育の教科書「無償」は、公明議員の努力で実現した。

面倒くささの価値を見直す



創価学会青年部長 西方光雄

評論家 與那覇潤

も始まりました。一時期は下野ですが、「第三文明」2023年12月号と題しています。九州大学の教野村三善教授は、自衛立憲の公明党の役割について、「結党以来、平和と福祉の政」として自民党との対立軸を明確に打ち立て、野党時代を歩んできた経験があります。そしてその野党時代に培ってきた経験が、現在の立憲政権のなかで、与野内野党としての役割を担う際に生かされていると思えます。

過去から現在に続く長い時間軸の中で、自分たちはどこに位置するのか。その延長上には、どのような未来を目指すべきか。長期の時間感覚を見失い、瞬間的な情動やブームに流されては、危機の中でもあおられ、過激な煽動と飛びつき、沈んでいってしまう。冷戦下では近代化論や共産主義などのイデオロギーや、ナショナリズムが、人々に時間軸を伴ったソリューションを提供しましたが、今やその機能を果たせなくなっています。近代に宗教が衰弱して、世俗的な歴史観が代わりを務めたはずなのに、いつしか私たちは再び宗教なしで歴史の感覚を得ることが難しい時代を生きているのかのように思えます。

1964年の結党以来、公明党は日本では例外的な宗教政党として、少数派の自覚を保ちつつも、平成以降は政壇で党として、政策の実現に存在感を示してきました。創価学会と公明党は、宗教政党であることに懸念せず、「歴史を踏まえるからこそ、二百年のビジョン」を掲げていると思えます。

今回の対談の様相を動画に観ることが出来ます



対談の後半は、こちらから読むことができます(編者電子版9月16日配信)。「中道政の果たす役割」について語り合いました

と対話すべき個人

私に懸念するのは、周囲と対話すべき個人

私に懸念するのは、周囲と対話すべき個人

私に懸念するのは、周囲と対話すべき個人

私に懸念するのは、周囲と対話すべき個人

私に懸念するのは、周囲と対話すべき個人

が加速した結果として、人々の意識が「いま・ここ」に集中してしまっている点です。秒単位のショット動画を見て、それだけでジョブ先を決めてしまおうのは、その典型といえます。

過去から現在に続く長い時間軸の中で、自分たちはどこに位置するのか。その延長上には、どのような未来を目指すべきか。長期の時間感覚を見失い、瞬間的な情動やブームに流されては、危機の中でもあおられ、過激な煽動と飛びつき、沈んでいってしまう。

冷戦下では近代化論や共産主義などのイデオロギーや、ナショナリズムが、人々に時間軸を伴ったソリューションを提供しましたが、今やその機能を果たせなくなっています。

近代に宗教が衰弱して、世俗的な歴史観が代わりを務めたはずなのに、いつしか私たちは再び宗教なしで歴史の感覚を得ることが難しい時代を生きているのかのように思えます。

1964年の結党以来、公明党は日本では例外的な宗教政党として、少数派の自覚を保ちつつも、平成以降は政壇で党として、政策の実現に存在感を示してきました。

創価学会と公明党は、宗教政党であることに懸念せず、「歴史を踏まえるからこそ、二百年のビジョン」を掲げていると思えます。

今回の対談の様相を動画に観ることが出来ます

対談の後半は、こちらから読むことができます(編者電子版9月16日配信)。「中道政の果たす役割」について語り合いました

と対話すべき個人

信頼される安心を、社会へ。

SECOM

使い方は簡単! 3ステップ操作



ご家庭でも、救える命があります。

セコム・MyAED 2,640円 (税込)

レンタル料 月額(1台あたり)

■保証金/台(非課税)20,000円  
■AEDレンタル期間5年:5年以降は1年ごとの自動更新、最大5回(最长10年)まで契約可能。

資料請求だけでも構いません。気になることは何でもお電話を!

セコムが提供する、家庭用AED。

5つの特長

- ひと目でAEDとわかるデザイン
- ご家族の「救急情報」をお預かり
- 24時間いつでも看護士に電話相談
- オンラインでAEDの状態を管理
- 「簡易講習キット」で練習が可能

0120-756-892

(受付時間) 9:00~18:00(年末年始を除く) 詳細・個人情報の取扱いに関しては、HPをご覧ください。